

北海道第二次

自給飼料増産推進 モデル飼料畑耕作の検討会 (2)

編集 部

牧 草 の 部

前月に続いて、牧草の成績検討に入ります。文と表中次の通り略号を用います。

アルサイクロンバ	Ac	アルファルファ	Af
ラジノクロンバ	Lc	アカクロンバ	Rc
シロクロンバ	Wc	イタリアンライ	IR
ケンタッキーブルー	KB	メドーフェスク	Mf
オーチャードグラス	Or	ペレニアルライ	PR
チモン	Ti		

1) 八雲町 大新 細川和彦さん

アルファルファ主体草地ですが、3年目にギンギンが目立って大きくなったので、3日かけて抜

き取りしました。このため収量減を来たしましたが翌年は期待が持てると思います。播種量と組合せの関係は、Af 2.5 kg と Or ヘイキング 1 kg の混播が良かったのではないかと考えます。(和田)

2) 千歳市 長都 佐竹公男さん

千歳では100 ha の Af 草地がありますが、冬季20 cm 位土壤凍結するので、Or の冬枯れが出てよくありません。また Ti の場合は夏の早ばつに弱い点があり、Af のパートナーが問題です。播種量は Af 2.0 kg は必要と思います。(春日)

3) 美瑛町 ルベシベ第4 菅野勝美さん

6年目の Af 草地で、4回刈合計で8 t の収量でした。私の地帯は高台傾斜地なので一般草地だと3.5~4 t なので、非常に高収です。乾燥に強いため

モデル飼料畑成績

混播組合せ	播種年月日	施 肥				成分量 (kg/10a)				調 査 成 績	3カ年合計収量				
		施月	肥日	肥料名	量 (kg/10a)	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO						
〈採草地〉 八雲町・細川 和彦氏															
Af(デュビユイ) 1.0	52.5.1	5.28		炭カル	60					番草(刈り取り月日)	I(6.27)	II(8.9)	III(9.20)	1年目 5,395 2年目 6,100 3年目 4,870 合計 16,365	
Af(サラナック) 1.0				化成-686	40	6.4	7.2	6.4		草丈(cm) Or	125.9	83.3	83.8		
Or(ヘイキング) 1.0		6.30		化成-055	20	2.0	5.0	3.0	1.0	Af	109.4	73.9	66.4		
計 3.0				化成-686	10	1.6	1.8	1.6		利 用 乾 草 乾 草 サイレージ					
		8.10		化成-757	20	3.4	1.0	3.4		マメ科率(%)	70	80	75		
			計		13.4	15.0	14.4	1.0	収量(kg/10a)	2,680	1,360	830	計 4,870		
〈採草地〉 千歳市・佐竹公男氏															
Ti(ホクオウ) 0.8	52.5.5	4.上		苦土炭カル	90					番草(刈り取り月日)	I(6.19)	II(8.7)	III(9.18)	1年目 3,500 2年目 6,460 3年目 6,210 合計 16,170	
Mf(トレーダー) 0.5				草地 8号	60	7.2	5.4	7.2	7.2	草丈(cm)	94.5	102.0	64.9		
Af(デュビユイ) 1.5		6.21		草地 8号	40	4.8	3.6	4.8		利 用 乾 草 乾 草					
WC(ニュージーランド) 0.2		8.9		草地 8号	40	4.8	3.6	4.8		マメ科率(%)					
計 3.0				計		16.8	12.6	16.8	7.2	収量(kg/10a)	2,820	2,010	1,380		計 6,210
〈採草地〉 美瑛町・菅野勝美氏															
Or(ヘイキング) 1.5	49.5.8	4.5		マキバ1号	40	3.2	4.0	5.2		番草(刈り取り月日)	I(6.19)	II(8.9)	III(9.14)	IV(10.27)	1年目 2,960 2年目 6,330 3年目 8,220 4年目 7,250 5年目 8,347 6年目 8,030 合計 41,137
Af(サラナック) 1.5		7.2		マキバ1号	20	1.6	2.0	2.6		草丈(cm) Af	84.1	75.4	65.0	56.0	
Af(エメラルド) 1.5		9.1		マキバ1号	20	1.6	2.0	2.6		Or	99.2	84.1	72.0	62.0	
Rc(ハミドリ) 0.3				牛尿 2回	4,000					クロンバ	62.5	30.0	28.0	25.0	
Wc(ニュージーランド) 0.2				計		6.4	8.0	10.4		利 用 乾 草 乾 草 乾 草 青 刈					
計 3.5										マメ科率(%)	55	55	55	55	
									収量(kg/10a)	3,030	2,000	1,700	1,300	計 8,030	

でしょう。

(広門)

刈取間隔について、私は当初40日間隔を守っていましたが、嗜好性が落ちるし倒伏のおそれもあるので、35日間隔にしております。勿論この時期には株ぎわに次の新芽が見えております。利用法は1番をサイレージに、2、3番は乾草、4番は状況を見てということにしています。嗜好性については、若刈りすることと燐を多く使う点が大切だと思います。(菅野)

4) 枝幸町 山白 津川晴雄さん

理想的な放牧地を作ろうということで努力をしました。総生重は7回放牧で5,800kgです。町内平均は3.2tですが、これは殆どが更新をしていないからだだと思います。それと多種類混播草地は気象の変動にも耐え、また季節生産性というか、毎回の収量があまり変動なく安定しているということにも連り、放牧地として好ましいと言えます。間隔は20日を原則とし、7月中旬に掃除刈と追肥

することも大切だと思います。

(松岡)

5) 枝幸町 風烈布 高橋一郎さん

造成の時、雑草が多かったり、地力のない土地で苦勞もありましたが、3年目で5.7tまでになりました。最も気を遣ったのは、マメ科率の維持で、4~5年もこの形で採草地にしたいと思っております。(高橋)

6) 別海町 上春別 井出 功さん

放牧地として造成、52年、53年と経過しましたが54年は融雪がおくれ、マメ科の冬枯れ特にLcのランナー迄枯死したので、放牧を止め1番を採草とし、7月20日より4回放牧しましたので、推定としては総生重で4.2tになったと思います。欠株、冬枯の出た時は追播する必要があると感じました。(井出)

7) 浜中町 姉別 押切克之さん

1年目は雑草が多く掃除刈と放牧をしました。2年目はOr主体の草地でしたが、3年目はTi主

混播組合せ	播種年月日	施肥日		肥料名	量(kg/10a)	成分量(kg/10a)				調査成績								3カ年合計収量	
		施月	肥日			N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	番草	I	II	III	IV	V	VI	VII		計
〈放牧地〉 枝幸町・津川晴雄氏																			
Or(マズハーディ) 0.8	52.6.5	5.6		化成-005	40	4.0	8.0	6.0	2.0	番草	I	II	III	IV	V	VI	VII	1年目 4,200 2年目 7,500 3年目 5,800	
Ti(ホクオウ) 0.6				重焼燐	10		3.5	0.5	刈り取り月日	5.25	6.15	7.6	7.20	8.10	9.1	9.26			
PR(フレンジ) 0.8		7.23			化成-757	30	5.1	1.5	5.1	草丈	マメ科	12~16	15~20	15~20	11~16	13~18	13~17	16~21	
KB(トロイ) 0.4					重焼燐	10		3.5	0.5	(cm) イネ科	16~25	18~26	18~27	14~21	18~25	15~20	18~25		
LC(カリフォルニア) 0.4		5			計	90	9.1	16.5	11.1	3.0	マメ科率(%)								計 5,800
AC(テトラ) 0.3					収量(kg/10a)	850	870	900	750	780	760	890	5,800						
計 3.2																		合計 17,500	
〈採草地〉 枝幸町・高橋一郎氏																			
Or(フロンティア) 0.6	52.6.5	5.中		化成-055	40	4.0	10.0	6.0	2.0	番草(刈り取り月日)	I(6.20)	II(7.23)	III(9.10)				1年目 2,300 2年目 5,355 3年目 5,710		
Ti(ホクオウ) 1.0				化成-757	30	5.1	1.5	5.1	草丈(cm)	イネ科	108	68	30						
Mf(トレーダー) 0.6		7.24			計	70	9.1	11.5	11.1	2.0	マメ科	32	28	20					
RC(ハミドリ) 0.4					利														
AC(テトラ) 0.2		5			計	70	9.1	11.5	11.1	2.0	マメ科率(%)	15	27	27				計 5,710	
LC(リーガル) 0.2					収量(kg/10a)	2,910	2,400	400											
計 3.0																		合計 13,365	
〈採草地←放牧地〉 別海町・井出 功氏																			
Or(フロンティア) 1.0	52.5.15	5.8		化成-055	40	4.0	10.0	6.0	2.0	番草(刈り取り月日)	(5.24)	I(6.30)	II(9.20)				1年目 4,438 2年目 3,807 3年目 3,130		
Ti(オムニア) 0.8				化成-757	30	5.1	1.5	5.1	草丈(cm)	Ti	13~16	62	57						
Mf(トレーダー) 0.6		7.7			化成-757	20	3.4	1.0	3.4	Mf	17		55						
IR(コンソ) 0.5					化成-757	20	3.4	1.0	3.4	LC			28						
RC(ハミドリ) 0.3		7.5			牛尿1,000ℓ					利							計 3,130		
LC(カリフォルニア) 0.2					計		12.5	12.5	14.5	2.0	マメ科率(%)	15	18						
WC(ニュージーランド) 0.1	3.5			計					収量(kg/10a)		1,650	1,480					合計 11,375		
計 3.5																			
〈採草地〉 浜中町・押切克之氏																			
Or(フロンティア) 1.0	52.6.6	5.3		化成 草地2号	60	3.6	6.6	6.6		番草(刈り取り月日)	I(7.12)	II(9.12)	III				1年目 2年目 6,091 3年目 4,215		
Ti(ホクオウ) 0.7				化成 草地10号	60	6.0	4.2	6.0	草丈(cm)	98.6	93.8								
Mf(トレーダー) 0.5		7.13			計		9.6	10.8	12.6	イネ科(チモシー)	62.0	52.7							
RC(ハミドリ) 0.6					利														
LC(リーガル) 0.2		6			計					マメ科(アカクロハ)	10	6					計 4,215		
計 3.0					マメ科率(%)	10	6												
									収量(kg/10a)	2,340	1,875						合計 10,306		

体となり、2回刈3番は放牧しましたが、収量的には下がりました。この傾向は全町的で、草地の維持管理、特に秋施肥については今後勉強しなければならぬ問題です。(川原)

8) 興部町 秋里 及川政雄さん

当地も融雪がおくれ、1番刈の時期は雨天が多く、2番では早魃の影響で伸びず、3番もそのまま低収で終わりました。Afの導入を考えなければならないと痛感しました。また放牧型では、5回刈用で5tというのは推定値です。(加藤)

9) 北見市 小泉 石原勝利さん

Af主体草地で53年待望の10tを取った訳ですが54年は1番を着蓄期に刈りましたが、それ以降早魃でイネ科減少し、収量は伸びませんでした。しかしAfが入っていなければもっと減収だったでしょう。北見の酪農家もAfには大いに関心を持っています。54年の天候で7t取れば立派なものです。(長野)

収納庫の関係で、始め1番Or, Ti乾草を与えていましたが、Af乾草が取れてから40日間Afを食べさせたところ、乳量が1日1頭当たり1kg増えましてAfは良いものだということが実感として判りました。

問題は上手な乾草作りなのですが、葉を落さないようにするためには、刈った日はヘイコンをか

けヘイメーカーでウィンドローにします。高温の夏期2日位動かさないで風を通し、そのままペールするようにします。(石原)

10) 大樹町 振内 木村彰一さん

2通りの組合せで設計しましたが、トウモロコシ跡地に播いたが、ハコベ、ヒエなど1年生雑草の生えがひどく、初期に生育がつかずきました。

その後Orに対する雪腐病の発生があり、追播の効果もあまり認められず立派な成績が得られませんでした。いずれにせよこの雑草と雪腐病対策は大樹町にとって共通の大きな課題です。(雨野)

11) 足寄町 向陽 池田英太郎さん

(成績検討会には長男の池田賢治さんが出席) 播種当年はとても良い草地が出来上りましたが降雪少なく、根が浮き上り、Orは30% Rcも冬枯れて消えてしまいました。53年7月の尿散布が高温とぶつかり更にLcなどマメ科が枯れました。このためTi2kgを追播し発芽しましたが、同時に裸地にギンギンも多発して期待した成績が得られず残念でした。結局Or, Rcの冬枯れが低収の原因で、今後も問題を抱えていると言えます。(東谷)

む す び

中野社長 昭和48年より始めましたこの事業は、自給飼料増産運動の一環として飼料作物の試作栽

混播組合せ	播種年月日	施肥		量(kg/10a)	成分量(kg/10a)					調査成績				3カ年合計収量	
		施月	肥日		肥料名	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	Ⅰ(6.18)	Ⅱ(8.10)	Ⅲ(10.9)	計		
〈採草型〉 興部町・及川政雄氏															
Or(フロンティア) 1.0	52.5.27	早春	化成-122	40	4.0	8.0	8.0	2.0	番草(刈り取り月日): I(6.18) II(8.10) III(10.9)	草丈(cm) イネ科 106.1	マメ科 43.3	用: サイレージ	乾草 乾草	1年目 1,000	
Ti(ホクオウ) 0.7			化成-122	20	2.0	4.0	4.0	1.0							+
Mf(トレーダー) 0.5		Ⅱ刈後	化成-122	20	2.0	4.0	4.0	1.0	利	マメ科率(%) 20	20	30	2年目 4,450		
RC(ハミドリ) 0.6			計		8.0	16.0	16.0	4.0						乾草 乾草	計 4,680
LC(リーガル) 0.2									取量(kg/10a)	2,330	1,200	1,150	3年目 4,680		
計 3.0												合計 10,130			
〈放牧型〉															
Or(マスハーディ) 0.8	52.5.27	早春	化成-122	30	3.0	6.0	6.0	1.5	800~1000kg/10a×5回	マメ科率 6.18 34%	10.9 30%	1年目 2,200			
Ti(ホクオウ) 0.6			重焼燐	30		10.5		1.4					2年目 4,600		
PR(フレンド) 0.8		追肥	化成-122	20	2.0	4.0	4.0	1.0	利	マメ科率(%) 70	100	75	3年目 5,000		
KB(トロイ) 0.4			早春	牛尿	1,000		5.0	20.5						10.0	3.9
LC(カリフォルニア) 0.3															
AC(テトラ) 0.3															
計 3.0															
〈採草型〉 北見市・石原勝利氏															
Ti(ホクオウ) 0.8	52.5.25	5.5	化成-122	30	3.0	6.0	6.0	1.5	番草(刈り取り月日): I(6.19) II(8.2) III(9.24)	草丈(cm) Or 84	Ti 73	Af 81	LC 32	1年目 3,500	
Or(マスハーディ) 0.5			苦土炭カル	40				3.2							89
LC(カリフォルニア) 0.2		6.26	化成-757	重焼燐	20		7.0		0.9	利	用 乾草 乾草 青刈	70	100	75	2年目 10,400
Af(デュビュイ) 1.5				計	30	5.1	1.5	5.1	5.6						
計 3.0										取量(kg/10a)	2,800	2,900	1,400	計 7,100	合計 21,000

培などを行い、皆様のご協力をいただいて良い成果が得られましたことは、弊社ばかりでなくモデル栽培農家、広くは北海道の酪農に役立ったと思います。これは各酪農家の皆さん、各普及所の先生方、農業団体の皆様のご協力のたまものと考え非常に有難く思っております。

始まった頃の昭和48年の石油ショック、続いて食糧危機が起り、国内農産物の自給率を上げるということでありましたが、ここ1、2年農産物が過剰となり、経営の中ではご苦心をされていると思います。しかし日本国民の生命、エネルギーを支えるためには、どうしても日本国内で食糧の自給率を高めてゆかなければならず、日本の国の将来に課せられた問題です。特に変動の激しい国際情勢を考えますと一層その感を深くします。

一時的な過剰や消費のアンバランスに動揺することなく、将来とも安定した食糧の自給を保ち、各農家の経営も将来に向けて発展性のある経営を確保するためには新たな覚悟で進まなければならないと思います。最近では「消費に見合う生産」などといわれていますが、私は「消費を拡大する生産」に向けて意欲を燃やしていただきたいと思います。農業経営の中でも、農業技術の中でも消費を拡大する生産は可能です。これに応えるためには、「質の向上」「もっと踏み込んだ生産コストの対策」であり、そうならば消費を拡大する生産となり、ひいては国際競争力もつくはずで

現在酪農においては決して消費が縮まっているのではなく消費は伸びております。しかし輸入畜産物に対抗力がないというような所に深い根があると思います。この中で第一に飼料問題を解決しなければなりません。まだ「地力の増強」「自給飼料の増産」それによる「牛乳の生産性の向上」という可能性が目の前に見えている訳です。

一方酪農協会で調査をした1,300戸の経営内容をみますと、一頭当たりの牛乳生産量が5,000kgを越え飛躍的に伸びました。しかし内容をみますと、実は増えたのはいろいろの要因があるとは思いますが、濃厚飼料の消費量が非常に増えているのが指摘されます。濃厚飼料を上手に使い自給飼料の比率も高めるようにしないと、消費を拡大する生産には結びつかないと考えられます。今後共雪印種苗の責任の大きさを自覚し、安定した北海道酪農が確立するためのお手伝い出来るよう努力を重ねてゆきたいと考えております。

最後になりましたが、この検討会に出席しておられる枝幸町の高橋一郎さんのお宅では、既に新聞でご承知のとおり、今回息子さんの高橋荘治さんが道農業青年賞を受賞されましたことは、一緒にこの事業に取り組んだ高橋さんが、社会に認められる実績をあげられたことで、まことに嬉しく、心より敬意を表しお祝を申し上げたいと思います。

3年間の絶ゆまぬご協力本当に有難うございました。

混播組合せ	播種年月日	施肥		肥料名	量(kg/10a)	成分量(kg/10a)				調査成績				3カ年合計収量		
		年月日	日			N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	番草(刈り取り月日)	I(6.18)	II(8.2)	III(9.23)		計	
〈採草型〉 大樹町・木村彰一氏																
Or(マクハーディ)	2.0	52	5	5	化成-122	40	4.0	8.0	8.0	2.0	番草(刈り取り月日)	I(6.18)	II(8.2)	III(9.23)	1年目掃除刈 +2,040 2年目 6,365 3年目 4,080 合計 12,485	
Mf(トレーダー)	0.4	5	8	9	化成-757	40	6.8	2.0	6.8	利	用	乾草	乾草	乾草		
AC(テトラ)	0.5				計		10.8	10.0	14.8	2.0	マメ科率(%)	70	70	65		
WC(ニュージーランド)	0.1	12								収量(kg/10a)	2,460	770	850	計 4,080		
計	3.0															
〈採草型〉																
Or(フロンティア)	2.0	52	5	5	化成-122	40	4.0	8.0	8.0	2.0	番草(刈り取り月日)	I(6.18)	II(8.2)	III(9.23)	1年目 2年目 5,920 3年目 3,966 合計	
RC(ハミドリ)	0.8	5	8	9	化成-757	40	6.8	2.0	6.8	利	用	乾草	乾草	乾草		
LC(カリフォルニア)	0.2	12			計		10.8	10.0	14.8	2.0	マメ科率(%)	50	60	50		
計	3.0									収量(kg/10a)	2,360	756	850	計 3,966		
〈採草型〉 足寄町・池田英太郎氏																
Or(マクハーディ)	1.2	52	5	5	化成-122	40	4.0	8.0	8.0	2.0	番草(刈り取り月日)	I(7.9)	II(8.29)	III	1年目 1,638 +掃除刈 2年目 4,286 3年目 3,540 合計 9,464	
Ti(ホクオウ)	0.6										草丈(cm)	Or	92.8	79.0		
Mf(トレーダー)	0.5										T	Ti	91.8	75.5		
RC(ハミドリ)	0.5										堆肥	Mf	84.3	63.4		放牧利用
LC(カリフォルニア)	0.2										計	Rc	71.0	58.7		
計	3.0				8.0	16.0	16.0	4.0	マメ科率(%)							
										収量(kg/10a)	2,040	1,500		計 3,540	合計 9,464	